

右爲治身病所請如件、

久安三年五月十七日

内大臣正二位藤原朝臣賴長

出藏人所如此

請假三箇日

牒爲治身病所請如件、以牒、

久安三年五月十七日

内大臣正二位藤原朝臣賴長牒

出外記如此

〔徳川禁令考^{十九}疾病忌服〕文久元年辛酉年三月廿八日

病氣引込期限ノ達

諸向ヨリ申立候、小普請ニ入候儀、御番方之面々ハ、別而十三ヶ月を限り相願候、十三ヶ月之分、一
兩月も病氣保養候ハ、罷出相勤候儀罷成候病氣ニ而も、其程ニ定有之候様ニ而者、無是非願之
儀、申出候輩も可有之候間、頭支配方心得ニ而、十三ヶ月之外、五六ヶ月も保養候而、出勤罷成候様
子ニ候ハ、見合願差出候様ニ、向後可被心得候事、

右之通、享保三年、被仰出候處、近年右之月數より、多く引込罷在候ものも有之、并内實者死候而小
普請入相願病死届延引いたし候類有之哉にも粗相聞、如何之事ニ候、享保之度被仰出候者、實ニ
病氣ニ而不得止事節之儀ニ有之、且又死去を押し、御宛行頂戴罷在候者、御後聞儀ニ而、先年御
仕置被仰付候儀も有之、旁向後心得違無之様可被致候、

右之趣、天保十二丑年相達置候處、兎角心得違之ものも有之哉ニ相聞、以之外之事ニ候、此以後布
衣以上以下御役人御番方等、前々定之月數より多く引込罷在、又者病死届等延引及び候もの有
之ニ於てハ、急度御沙汰之品も可有之候條、遺失無之様可被心得候、